

## 風祭川上流で見つかった富士火山噴出物中の炭化木群

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北垣, 俊明 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025067">https://doi.org/10.14945/00025067</a>

## 風祭川上流で見つかった富士火山噴出物中の炭化木群

北 垣 俊 明\*

### 1. 直立炭化木群の発見

今回の炭化木の第一発見者は富士宮市山宮在住の小野田勝一氏。2000年3月、同氏より富士山南西麓の風祭川上流の崖に炭が埋まっているとの情報が(財)石の博物館(奇石博物館)に寄せられ、その後の調査で火山噴出物に埋没する炭化木群を確認した。



写真. 直立した炭化樹幹のひとつ. 左手が沢の上流部. 上流側に流れ下ってきた巨礫をせき止めた痕跡が残る. スケールの長さは1m. 大きなものは露出部分だけでも長さ3m, 直径90cmほどあり, 一部樹皮まで残され保存状態は今のところ良好である.

炭化している樹幹の大きさは最大で直径が90cm、長さは優に3mを超える。同地点では、同サイズのほぼ直立した炭化木を現在までに5本確認している。炭化木が埋没している地層は上位を約3100年前の富士火山噴出物(大沢スコリア)に覆われており、それ以前の富士山噴火によってもたらされたものであることが解る。また本地層の下位には新富士火山中期の溶岩流(約4500~3000年前、おそらく白塚溶岩流: shi、津屋1971)が分布している。

今回発見した炭化木群は、もとの樹木がその場所で炭化したもの(現地性)なのか、あるいは別の

\* (財)石の博物館(奇石博物館)

場所で炭化したものが再び運ばれてきたもの（異地性）なのかが大きな視点となる。

- 1) 直立した状態で炭化樹幹が火山噴出物に埋まっている。
- 2) 同地域に直立炭化樹幹がまとまって見つかっている。
- 3) 直立炭化樹幹の上流側に垂円巨礫をせき止めたような痕跡がある。
- 4) 直立炭化樹幹のうち1本は根部が火山噴出物の下位に達していることを掘り込んで確認した。
- 5) 樹幹だけでなく炭化した根部？が下位の赤褐色土壌にまで達している個体もいくつかある。
- 6) 火山噴出物の下位土壌中にもたくさんの炭化物が混じっている。
- 7) 大沢崩れの標高 1300 m 地点で確認されている炭化木を含む火砕流の地層と層相が似ている。

以上の観点から、本地点において高温の火山噴出物に覆われ森林が焼き尽くされた可能性が高いと考える。同地点に多くの現地性炭化物が埋まる可能性が高いことから、当時の自然森を復元するような試みも今後学際的に進めたいと考えている。現在、本地域の調査は、北垣俊明(奇石博物館)、堀内一利(環境アセスメントセンター)、山本玄珠(富士市立吉原工業高校)、輿水達司・内山 高(山梨県環境科学研究所)らで進めている。

## 2. 炭化木群の意義とその保護について

富士山の火山防災意識が高まる中、その南西～西方に位置する富士宮市周辺には、今まで泥流災害の他にほとんど大きな火山災害記録が残っておらず、防災指針に乏しい地域と懸念されていた。すでに大沢崩れ下流域で類似する地層が、多田ほか(1961)、岩塚・町田(1962)、町田(1977)、宮地(1988)、山元ほか(2002)により、火山灰その他の放出物からなる地層(凝灰角礫層や大沢火砕流)として報告されている。仮に今回の炭化木発見地点の地層が、すでに知られていた大沢崩れ下流域の地層と同一時期のものとする、当時かなり広い地域(両地点は直線距離で約6 km)を高温の火山噴出物が覆った可能性があり、本発見は火山防災上もきわめて重要と考える。またこのように埋没する大きな直立炭化木群の報告は、富士山においてはもちろんのこと、海外を見回しても見当たらない。これは富士火山の営みを理解するうえでも重要な自然遺産である。

現地は日々刻々と浸食され、手立てを講じなければ確実に本露頭は損なわれていく。現地で保護するのか、取り出して保管するのか等を含め、早急の対応を行政に期待したい。

## 引用文献

- 岩塚守公・町田 洋(1962) 富士山大沢の発達。地学雑誌, 71, 143-158.
- 町田 洋(1977) 火山灰は語る。蒼樹書房, 東京, 342 p.
- 宮地直道(1988) 新富士火山の活動史。地質学雑誌, 94, 433-452.
- 多田丈男・岩塚守公・町田 洋・小池一之・細井将右(1961) 富士山大沢における崩壊および砂礫移動についての研究(第3報)。静岡県大沢崩対策, 昭和35年度, 1-38.
- 津屋弘達(1971) 富士山の地形・地質。富士山-富士山総合学術調査報告書, 富士急行, 1-127.
- 山元孝広・高田 亮・石塚吉浩・宮地直道(2002) 富士火山西～南西斜面で発生した玄武岩質火砕流の特徴とその起源。2002年地球惑星科学関連学会合同大会, 講演要旨集, V 032-017.